

地域住民向け研修会

『誰もが住みやすいまちづくり』

～障がいを持つ方と住民の繋がりを求めて～

Vol.2

当日の記録

平成30年10月31日（水）18時30分～20時30分

竜王北部公民館4階ホール

社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター

## 開催目的

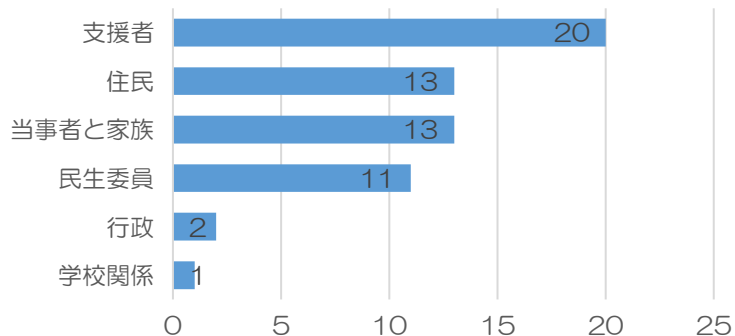
昨年度に第1回の地域住民向けの研修会を行い、地域の担い手である多くの市民に参加していただきました。今年度は、①前回とは異なる障がい種別の方にも参加してもらい、参加者のさらなる「障がい理解」を進めること。②障がい当事者への関わり方や出来ることの気づきを得ること。③当事者の地域生活を支援するための住民を巻き込んだ支援体制の構築を目指すことを目的として本研修会を開催しました。

## 参加者

申込者数	64
出席者数	60

支援者が最も多いが、地域住民が全体の62%であり、幅広い層の方に参加していただいた。

## 出席者所属内訳



## 研修会当日の様子

### 1. 開会

#### 司会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター  
坂本 大輔

### 2. あいさつ

甲斐市障がい者基幹相談支援センター  
センター長 飯室 崇

### 3. 内容

#### (1) 講義

講師：山梨県立大学 人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 高木 寛之 氏  
題 「地域福祉の役割と意義について 今、地域住民に求められること」



社会全体が目指している“地域共生社会”。そこでは、地域住民にはどのような姿が求められているのでしょうか。それは、自分だけでなく、自分たちで、専門職も巻き込みながら、困りごとを抱えている人を中心に支え合う地域の姿です。この支え合いは「住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり」とも言われます。その際に、2つの“理解”を大事にしてください。一つは、相手の人生への理解です。困りごとを抱えている“今”だけでなく、“これまで”と“これから”を含めて理解してください。もう一つは、その人への支援の全体像への理解です。一人で全てを支えるのではなく、多くの人と共にどのように支えるのか、その全体像の中で自分の役割を理解したうえで共に支え合う、そんな社会を作っていきましょう。



(2) 話題提供

題 「甲斐市で暮らす私たちの生活」

①「知り合うことから」(重度心身障がい児の理解)



②「わたし」(発達障がい者の理解)



③「僕を知ってください」(知的障がい者の理解)



(3) 実際に話をしてみよう！

題 『障がいを持つ方と住民が繋がる方法について考えよう』

1. 自己紹介
2. グループの中にいる当事者と住民が話をしよう。
3. 障がいを持つ方と住民が繋がる方法・内容・場所等について話し合う。

○発表内容について○

ファシリテーター：甲斐市役所福祉課 石川和紀

- ・障がいを抱えている方の実情を知ることができた。
- ・地域の中では障がい者と関わる機会が少ない。
- ・障がいが見た目では分かりにくいので、こうした場において自分から発信できるといい。今回のような垣根を越えた交流できる機会が必要。街で会うだけでは、その人の困りごとなどは分からないので、こうした研修会が定期的にあるといい。



ファシリテーター：基幹相談支援センター 小野亮一

- ・当事者との話から困りごとを共有できた。
- ・ボランティアをしている人から、障がい者との関わる機会がなく、経験もないことが挙げられた。今後は、当事者と関わる際に、支援者が間に入ってもらったとききっかけづくりとできる。
- ・障がい者から発信できる伝える場もあるといい。

ファシリテーター：中北圏域マネージャー 飯室正明

- ・一人暮らしをしている当事者から、急な困りごとがあった時に地域の人に相談をしたいと話があった。
- ・困っていることを具体的に知る機会、サークルとか集える場所が必要かもしれない。
- ・手話でコミュニケーションをとるために、多くの人に手話を知ってもらいたい。





ファシリテーター：基幹相談支援センター 石岡春江

- 自分の住む地区に障がい者がいるが、母親が支援を拒否していて、地域との接点のない家庭がある。そうした人に関係性を作るために、訪問や情報を伝えることもできると話げた。
- 障がいの有無を問わずに参加できる親のサークルなどで交流できる場も必要である。

ファシリテーター：社会福祉協議会 深澤智宏

- 当事者から日々の生活の様子を聞いた。困っていることとして、自治会の役員になって欲しいと言われたが、病気のこともあり断ったが、周りから理解が得られなかった。
- 当事者も自分ができることは行っていく。障がいをわかてもらえる機会を作る。自治会長の理解が得られなくても、他の協力者を増やしていければいい。盾になってくれる人を専門職以外にも作っていければいいという話げた。



ファシリテーター：社会福祉協議会 岡林弘

- 発表者の幼少期や障がいを知らなかった時の話を聞く事ができた。また、趣味や特技を知ること、新たな面を知ることができた。
- 地域との交流について、自分からはなかなか行くことができないので、障がいや一般の人を分けずに交流ができる場が必要という話げた。



ファシリテーター：甲斐市役所福祉課 堤真由美(※発表者は別)

- 当事者から昔はいじめがあり、周りの理解がなかった。今は学校でも取組みがあり、いろんな場所で環境づくりがなされている。差別をなくす取組みもある。
- 地域で出る際に、スーパーでの身障者用駐車場があった場合に健常者が止めている場合がある。そうした時などに発言する勇気も必要という意見があった。





ファシリテーター：春日の丘 奥山豊彦

- 民生委員や支援者の仕事、当事者の生活について共有した。困りごとは、当事者だけではなく支援者や民生委員にもある。そうした困りごとを聞いてもらえる場や話しができる機会が必要である。
- 生活の困りごとや不安についてお茶を飲みながら気軽に話ができればいいと思った。

ファシリテーター：ぴーすふる千代田 内藤忍夫

- 当事者から困っていることや今後の目標を聞いた。レジでお釣りをもらう時に素っ気無い態度をされたこと、他の嫌なことをされたことについて共有することができた。
- 当事者は地域に出ているいろんな人に会いに行くよう努力をしているので、地域も受け入れてもらえるような気持ちが必要。こうした場で市民に共有できて良かった。



ファシリテーター：療育コーディネーター 由原木淳美

- 地区の住民が減少し、消防や避難訓練、自治会などの参加が減っている。しかし、挨拶や会話などの顔の見える関係はできている。その後の困りごとを言える環境が必要に感じる。
- 日常生活の中で趣味や余暇活動を通して出会った人と、困りごとなどを話し合える場所があったらいいと思った。



## まとめ

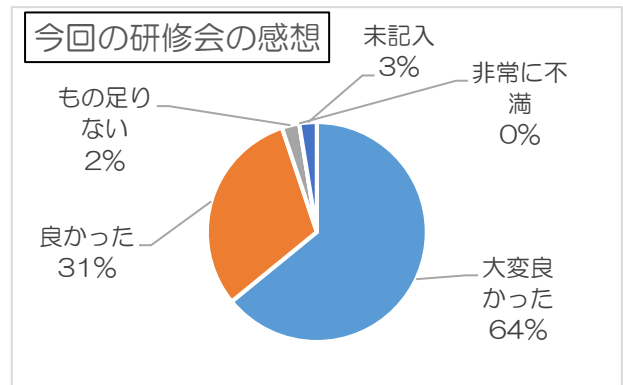
困りごとで初めて繋がるような社会にしないでください。そのためにも、専門職が盾になることがとても重要です。どうやって繋がっていくか、趣味や遊びを通じて繋がれることが必要です。研修会などは非日常的なものなので、こうした研修会だけが繋がり場ではないです。日常生活の中で、顔を知っている、見たことがあるなどの「緩やかな繋がり」を作ることが必要です。また、困った時や何かあった時に、どこに相談できるかを知っている「強い繋がり」も必要となります。皆さんが、二つの繋がりを作って、お互いに地域の中で発見して解決していく体制を作っていきましょう。

## 平成30年度 地域住民向け研修会 アンケート結果

アンケート回収率 65.0%

### 1. 今回の研修会はいかがでしたか（単位：件）

・大変良かった	25
・良かった	12
・もの足りない	1
・非常に不満	0
・未記入	1



#### （上記の理由）※重複あり

- 深く、深く発表者を理解できなかった。三人三様の件を全体で深く理解するために全体で話し合う機会を設けてほしかった。（三人の発表者を知り共感するため）
- パネラー三名からの話が聞けた。（実態を知ることができた）
- 色々な人の意見を聞くことができてよかったです。
- 当事者の方、専門職の方の貴重なお話が聞けて良かった。
- 色々な人との関わりがあった。
- 当事者は、何事にも気を使って生活している。
- 当事者の方と一緒に話げできたこと。
- 高木先生の話、グループの皆様との話が大変勉強になりました。
- このような会に参加できたこと。
- ゆるやかにつながりという keyword を聞けた。
- 講演を聞くだけでなく、当事者の話を聞いたり、そのうえでのアウトプット(話し合い)ができてよかった。
- 知らないことを教えていただきました。
- 私たちと変わらない、普通の生活をしている様子が見えた。
- 身近にいたので様子がわかった。
- 障がい者本人の話が聞けたこと。
- グループワークがよかった。
- 当事者の方の話を聞けたから。（グループでも）
- 体験・グループワークが多く、自分の考え・他者の考えを知ることができた。
- 当事者と話げできたこと。時間はもう少し早く始めてほしい。
- どのようなお手伝いをしてあげたらよいか、何に困っているのか、なかなかわからない中で勉強になりました。

- 色々な人の話を聞いて良かった。日常的に聞くことのできない当事者の話が聞けた。
- 自分と違う障がいの人の話が聞いて良かった。
- 自分自身の考えでなく、やわらかく。
- たくさんの意見が聞いて参考になることが多かった。
- これからもこのような機会をやってほしい。疑問に思っていたことが、少しわかった気がします。
- 最後の高木先生の感想がよくわかり、なるほどと思いました。
- 初めての機会でしたが障がい者のこと少しわかりました。
- 専門職の職員と当事者だけの関わりではなく、地域住民に広く理解が得られるいい研修会でした。色々な地域で開かれるといいと思います。
- 気を付ける点など色々知ることができた。
- 当事者の方、支援者の方と具体的な内容のある話し合いができました。
- 内容は「物足りない」といいたいが、障がい者を「人間」ではなく『被害者』や『遺物』のように感じている参加者も見受けられたため、掘り下げすぎないのは適切であると考えます。

## 2. 今後の生活で障がいを持つ方との繋がりをどのように作れると感じましたか？

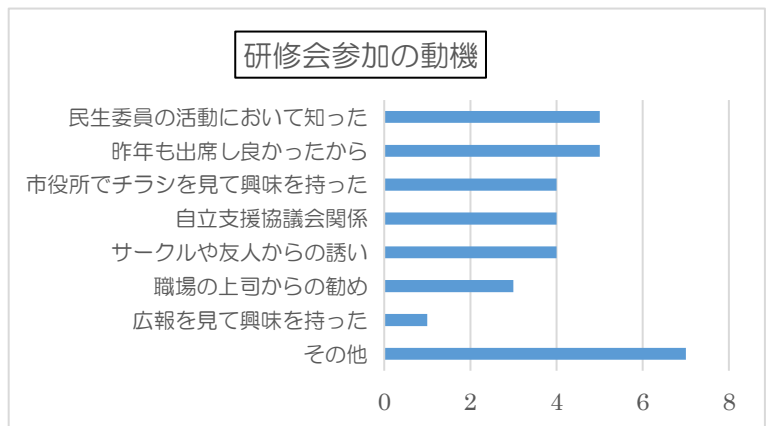
- 行政として、繋がりを作るべきだ。
- 日頃の付き合い方とか、その不自然さを感じた場合は、その本人とか家族の中に障がい者がいるのかどうかも注意深く感知できる人間になりたい。
- 相手の特性を理解すること。
- 日常生活の中で自然な繋がりをつないでいくことが大事。
- グループホームに遊びに行く。
- 色々なケースがあるので、障害を持つ方の考え方をよく聞いてやる必要がある。
- 身近に、ゆるやかに目指していきたいと考えています。
- 機会を大切に有効にしていく。
- 作れると思う。作っていきたいと思いました。
- 自然体でいたい。
- 障がいのある方もそうでない方も一緒に交流できる行事があるとよいと思います。
- 足を運ぶ・心配していく・同じ仲間の会を紹介する。
- 何かできることがあれば手伝いをしたい。
- 日常生活の中でのつながりについて考えたいと思った。
- 必要性を感じました。
- 普段の生活の中では難しいかもしれない。特別な機会がないと。



- 高木先生が言ったようにゆるやかなつながりを探していきたいです。
- このような場があれば障がい者と出会い、もっと色々な行事の場を作る。
- 生活の中で障がいの方との関わりを作っていきたいと思います。
- このような会を重ねていき少しずつつながりを作っていければと思います。
- 自分も障害があるので、できることは参加・お手伝いをしたい。
- 自然体でお付き合いができればと思いました。
- 地域で顔の見える関係づくりをすること。地域の行事などへも参加できるといい。趣味でつながることも大切。
- 作りにくい、どなたかにお願いしなければ。
- 少しずつでも色々なことに関わっていきたい。
- ゆるやかにつながっていきたい。
- 地域の中ではわからない部分が多く、ちょっと難しく思う。
- 今回のような機会があるとある程度のきっかけになる。
- 私は専門職ですが、日々悩み模索しています。今日の研修会で地域の一人としてできることがたくさんあるように思えました。
- 今まで通りとまとの会での活動。
- さまざまな人の考えを知ることができた。
- ゆるやかなつながりも大切にしたい。
- 今後も今までと同様、繋がり。
- （当事者として）繋がりには避け難いことですし、避けるべきではないと思います。

### 3. 今回の研修会の参加のきっかけはなんですか？（単位：件）

・民生委員の活動において知った	5
・昨年も出席し良かったから	5
・市役所でチラシを見て興味を持った	4
・自立支援協議会関係	4
・サークルや友人からの誘い	4
・職場の上司からの勧め	3
・広報を見て興味を持った	1
・その他	7



（老人介護にかかわっているが、認知症も含め障害があることは、現状では、どうしても確認したいというのが人情である。これが打破される社会に向けての何かをしたいができるのかと点を勉強したい。）

（障がいということは他人ごとではなくいつ自分になるのかと考えると勉強しておきたいと思いました。）

(基幹相談支援センターからの紹介。)(20年くらい前に疑問があり、参加しました。)

(孫が県立大学の人間福祉の勉強をしているが、どんなことかとお出かけてきました。)

(地域への理解をどう広げるか知りたかった。)(興味があったから)

#### 4. 今後の研修会開催において、事務局への要望やご意見等ご自由にお書きください。

○研修会の前段として、学校教育、特に中学生・高校生の研修会(実態を知る)活動・会を各学校で開催してほしい。小学校でも可能かと感じる。学校関係者と話し合ってください(学校校長会の活用など)。日常化する必要がある。

○地域の民生員でもない人がたくさん参加できるような会を開いてほしいです。

○当事者と話ができる機会を更に増やしてほしい。

○定期的を開いてほしい。

○グループごとの課題があり良い話し合いができたので、要望としては同じような研修会をしてください。

○よろしく。数打って行ってください。

○2回参加したけど、よく状況がわかり、皆でともと言う関係が大事なこととわかりました。また、参加したいと思いました。

○体験・グループワーク等の機会をぜひ作ってほしいと思います。

○昼間に開催してほしい。仕事終わりはきつい。グループワークは充実していた。もっと時間がほしいくらいだった。ゆるいつながりの話は貴重だったが、具体的にどのようなつながりがあるのか知りたかった。参加してよかったです。

○今後も継続してほしい。

○研修会は継続してもらいたいです。色々な話意見が聞きたいし、今後の将来のために。

○とても研修内容が素晴らしかったです。

○親が亡くなった後のことが心配な人がいらっしゃるのではないかと。

○毎回同じ方が参加するのではなく、たくさんの方に聞いてほしい。高木先生の言葉でした。

○また参加したいと思っています。

○障がいのある方々の直の話をもと聞きたいと思います。

○また参加させていただきたいと思います。

○年齢的に長寿会のことには一生懸命で、障がいについて不勉強でした。

○参加したいと思います。

○見えにくい障害を理解するための研修もあるとうれしいです。

○チラシの内容をもう少し考えてもらいたい。

○根気強く続けていきたいと思っています。

☆アンケートへのご協力ありがとうございました☆

高木寛之先生より

『誰もが住みやすいまちづくり』はどのようになされるのか。それは、ボランティアなどを含む地域住民だけでなく、社会福祉協議会、行政、社会福祉法人、NPOといった専門職との協働によってつくられていきます。甲斐市や皆さんの地区の実情はいかがでしょうか。

今回の研修会は、このようなまちづくりの“きっかけ”となる時間と場です。そこには、当事者を含む地域住民と専門職が、同じテーブルで地域の暮らしについて話し合う姿がありました。この話し合いのなかでは、様々な理想と現実との乖離、実現するための困難さが出てきたと思います。しかし、まちづくりはこのような困難さの中で“それでも”を繰り返す力強さが求められます。この“それでも”を繰り返す時間と場として、今回のような話し合いを大切にしてください。そして、このような時間と場の中で、当事者と住民と専門職のゆるやかなつながりをつくり、困りごとを抱えている方の理解を前提に盾となる人々が多く存在する甲斐市をつくって行ってください。

事務局より（基幹相談支援センター）

平成30年度の地域住民向け研修会にご出席された皆様ありがとうございました。

当日のグループワークやアンケートの中で、多くの方がこのような研修会に関心があること、今後も繋がり場を求めておられることを知ることができ嬉しく思っております。地域のことを話し合う場である地域自立支援協議会においても、障がいをお持ちの方と地域がどのように繋がることのできるか協議している中で、とても参考になり、わたしたちも“気づき”をいただいた場でした。私たちは専門職として、障がいをお持ちの方の盾となり、日頃の生活での「生きづらさ」を少しでも緩和したいと考えております。地域においても、小さな繋がりを積み重ねていく中で、障がいをお持ちの方を理解してくださる方や、少しの生活の困りごとの相談に乗ってくれる方が増えてくるといいなと思います。そうすることで、「誰もが住みやすいまち」を作っていくことができると思います。そうした関わりの中で困ったことや対応に悩んだ時には、当センターをご利用ください。一緒に考え、一緒に私たちの住みやすいまちを作る力になればと思います。

報告書作成者

＊山梨県立大学 社会福祉学部 福祉コミュニティ学科

高木 寛之 先生

＊社会福祉法人 甲斐市社会福祉協議会

甲斐市障がい者基幹相談支援センター 坂本 大輔